

JISPA NEWS

輸入車整備の情報誌

〈発行所〉 一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

TAKE FREE!

Vol. **09**

2023年 2月

安心して
輸入車に乗る。

TOPICS & VIEW

〈巻頭特集〉 故障診断の重要性

「診断機だけの診断」で
終わらせない。

整備の現場から生の声をお届け **匠 VOICE!**

古き良き名車を愛でる【特別編】 #009

Hurtan Automobiles

Grand Albaycin

会員工場訪問記 サンエー自動車工業

気になる自動車業界の先を詠む

自動車業界のNEWSな話題

意外と知らない?クルマの豆知識 **バッテリーの話**

[JISPA会員紹介]

大山自動車整備工場 (福岡県糟屋郡)



輸入車修理のベストパートナー
一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

撮影協力: サンエー自動車工業

〈巻頭特集〉

故障診断の重要性

「診断機だけの診断」で終わらせない。

国産車・輸入車問わず現在の自動車整備になくしてはならないものが故障診断機である。特に輸入車は国産車に先駆けて古くから電子制御が行われているため、古い車においても診断機を繋がないと整備ができないケースが多い。しかし、この故障診断機について誤解をされている輸入車ユーザーも少なくないので、今回は輸入車整備において故障診断がいかに重要で経験が必要な作業かを説明させて頂きたい。

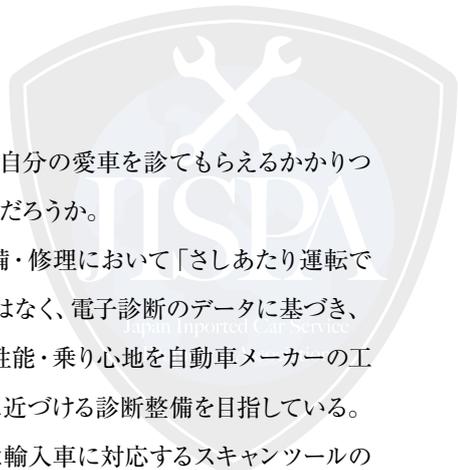
まず、多くの方に言われるのが「故障診断機があれば修理箇所が分かるんでしょ?」ということだが、そんなに簡単なものではないというのが実情である。故障診断機を購入しただけで車両の診断ができるわけではなく、診断機は“電子的に車両の状態を把握するための聴診器”に過ぎないのだ。これを、どのように使用して故障原因、不具合原因を探っていく

か?これは長い経験に裏打ちされたノウハウがあってこそ可能になる。

例えば「P0171 混合気リーン異常」という診断結果が出た場合、何らかの理由で混合気が薄くなっていることは分かるが、その理由までは判断できない。この情報だけでは幾つもの原因が考えられ、パッと思いっただけでも、

- ①どこかで2次エアを吸い込んでいる
- ②インジェクターが詰まり気味で適切な噴射量が出ていない
- ③何らかの理由で燃圧が下がっている
- ④エアマスメーターが狂って正確な吸入空気量を計測していない
- ⑤O₂センサーが狂って噴射時間が短くなっている
- ⑥冷却水温センサーの狂い
- ⑦エンジンの機械的故障

などが考えられる。



つまり、診断機で得た結果（事象）と実車の状態、お客様からの情報などから根本の原因を推察していく部分には、整備士の技量が大いに影響してくるのだ。輸入車整備においてよく耳にするのが「近所の整備工場に修理をお願いして一時的には直ったのだが、暫くしたら同じ不具合が再発した」ということだ。まさにこれは、診断結果（事象）に対して応急処置を施しただけで、根本の原因が解決されていないから起こることである。

また、最近の自動車にはセンサやエンジンコントロールユニット等の電子装置が数多く搭載されており、一つの事象が複数のシステムに影響を与えるため、故障コードが複数入力されることが多い。この場合には、複数の故障コードに関連性があるのか、あるいは複数の故障が発生しているのか、より複雑な判断が必要になるため熟練の整備士でも苦労する場合もある。

人間もクルマも同じで、病気は早期発見、早期治療が長生きの秘訣である。愛車に長く良い状態で乗り続けるためには、初診時に適切な故障診断を行い、クルマに負担がないように早期の整備が欠かせない。つま

り、必要なのは安心して自分の愛車を診てもらえるかかりつけ医を持つことではないだろうか。

JISPAでは車両の整備・修理において「さしあたり運転できれば良い」のレベルではなく、電子診断のデータに基づき、車両の環境性能・安全性能・乗り心地を自動車メーカーの工場出荷時(新車)の状態に近づける診断整備を目指している。その為に、会員企業へは輸入車に対応するスキャンツールの保有及び高度な活用を必須条件とし、輸入車整備セミナーを開催し、不具合・故障に対応するトラブル・シュートを実践形式で学ぶ機会を提供している。

万が一、近隣の整備工場やディーラーの診断に疑問が生じた際には、セカンドオピニオンとして是非JISPA工場に相談をしてみたい。もしかしたら異なる診断結果が出るかもしれない。



新車時の状態に近づける診断整備を目指すJISPAでは実践形式で学ぶ機会を提供している

JISPA 活動報告

2022年度 輸入車整備の実務セミナー（中級編）を開催

2022年10月12日（水）・13日（木）@三井住友海上 千葉研修所

10月12日・13日の2日間、千葉県の三井住友海上 千葉研修所にてJISPAとエーシー企画の共催によるセミナー「2022年度 輸入車整備の実務セミナー（中級編）」が開催された。

本研修は、“輸入車の不具合・故障に対応するトラブル・シュート実習”をテーマにした研修で、診断機を使用した輸入車整備作業を経験しているが、故障探求のためのスキル不足で



開会の挨拶をする平林代表理事

解決に至らない、あるいは時間がかかるメカニックを対象に、レベルアップを促す内容となっている。輸入車の整備においては、不具合整備・故障整備が

重要な位置を占める。「警告灯」も万一に備え予防の意味で早めに点灯し、輸入車ユーザーも車両の不具合に気付いて整備工場に相談することが多いからだ。参加者からは「ス



中級編では実車を使用した故障探求を行う

キャンツールを使い故障原因を特定するための方法が把握できました」、「講師が自分達と同じように日々、整備現場で働くメカニックなので、話が分かりやすかった」と好評を頂いている。今後もJISPAでは、輸入車整備のスキルアップに繋がる研修を随時開催していく予定だ。

整備の現場から生の声をお届け



VOICE!

平均車齢が8~12年と、輸入車を長く大切に乗り続けるオーナー達から、
“整備や修理を安心して任せられる工場”を求める声が広がっている。
このコーナーでは、JISPA会員工場に入庫した整備事例の中から、
輸入車オーナーにとって興味深く、目からウロコな“生の声”をお届けしよう。

整備事例#013

VOLVO V60



DCT (デュアルクラッチトランスミッション)フルード交換



ボルボV60が変速時にショックがでるということで入庫。実際に乗ってみると、加速時のシフトアップの際に遅れが生じていたり、減速停止時に1速ギヤに落ちるのが遅い時がある症状です。リフトアップして変速機(トランスミッション)を見ます。この車は「DRIVe」というグレードで、マニュアルトランスミッションの機構をベースに、偶数段(2・4・6速)と奇数段(1・3・5速)で2系統にし、それぞれにクラッチを設けてそのクラッチ操作を油圧で行うもので、『デュアルクラッチトランスミッション』(以下:DCT)というタイプになります。今回の場合はドレンから抜いて抜いた分を入れる方法でいきます。

この車の場合、ドレンプラグは前側と後側に2か所あり、ここを緩めてDCTフルードを落とします。そしてフルードフィルターが左のフェンダーライナーに近いあたりにあります。これも緩めてフルードを落としていきます。抜いてみたところだいたい6Lほどが抜けました。ここから新しいフルードを注入していきます。エンジンルームに向かって右側にエアクリーナーボックスがあるので、これを外すとドレンプラグを外しやすくなります。フルード抜き用のドレンプラグと同じタイプ。ここを外してジョウゴを使って少しずつ注入。指定量は7.3Lとのことなので、指定通りに。あ

とはコンピュータをつないで暖気し、DCTフルードが50~60℃くらいになるまで温めて、シフトをゆっくり2往復。最後にトランスミッション側面にある油面用のドレンプラグを外して油量を調整。今回は少し溢れたので滴るのが止まるあたりまでフルードを出したら終了です。このあと1日かけて一般道や高速など様々なシチュエーションで試走しました。シフトの変速ショックはだいぶ軽減され、停止時の1速ギヤへの戻りもスムーズにきました。ベストで改善効果がバツグンな方法は圧送交換になりますが、この方法でも効果としては十分かなと思います。今後は20000kmをめぐに同じように交換をしていく形になります。

満油商事株式会社 (愛知県名古屋市)



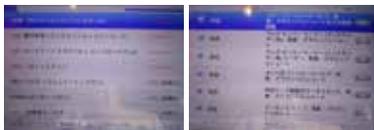
整備事例#014

MINI CROSSOVER R60



エンジンチェックランプ点灯&異音

エンジンチェックランプが点灯してディーラーに見てもらったら「コンピューターとの通信ができていない」と言われ、「トランスファーも異音がおかしいので、この2つを修理



すると100万はかかります」と言われた車両。

診断機をあてると故障コードがたくさん。そのほとんどがショートの数値。確かに診断機にはデータメタな数字が出ています。

そこでECUを確認してみると、配線が切れています。この配線を辿ると対策品でオイルコントロールバルブに配線を取り付けていました。もしやと思いエンジンヒューズBOXを見ると、やはりヒューズが切れていました。新

しいヒューズを入れても1秒でまた切れます。切られた配線は処理されていますし、クーラントポンプには電圧が掛かっているのを確認したので、あと怪しいのはオイルコントロールバルブ。カプラーを外して内部抵抗を見てみると、通常8Ω~15Ω位あるはずの数値が0.19Ωしかありません。ここまでの診断結果をもとに回路図をみると、一つの配線の流れを通してみんな一緒に配線で繋がっています。オイルコントロールバルブにかかる電圧の抵抗が無い分、大きく電圧がかかりすぎて他の方向に流れ、他のセンサーの数値をお



かしくしたのだと思います。オイルコントロールバルブを変えてどうなるかを見ていきます。取り外したオイルコントロールバルブが熱で溶けています。ここで新品の抵抗値を図って見ると11.42Ω、やはりコントロールバルブの内部故障です。新品を組み付けてエンジンをかけて見ると、チェックランプは消え、数値も規定値になりました。あとはトランスファーですが、今回は40km~異音がでたので、フロント右側ハブベアリングと診断。右側がおかしくなっていました。左側も一緒に交換しました。

もしもECUとトランスファーを交換していたら大出費になってしまつていました。故障箇所には必ず理由があるのできちんとした診断が必要ですね。



株式会社大平自動車 (秋田県能代市)

古き良き 名車を愛る 特別編

WE LOVE VINTAGE CAR!

#009

Hurtan Automobiles Grand Albaycin

フータン・オートモービルズ グランドアルバイシン

今回の「古き良き名車を愛る」は特別編として、JISPAの賛助会員で中古車販売及び故障診断機メーカー「LAUNCH TECH」の日本正規輸入元を展開するロシェル株式会社（大阪府和泉市 代表取締役 坂口勝己）が2023年2月11日に輸入販売を開始した、スペインのコーチビルダー「Hurtan Automobiles（フータン・オートモービルズ）のGrand Albaycin（グランドアルバイシン）」を紹介したい。

フータン・オートモービルズはクラシックカーに魅せられたファン・ウルタードが、1991年にスペイン・サンタフェで設立した少数生産の自動車コーチビルダー（車体架装メーカー）である。フータンの熟練した職人がハンドメイドで製作する車体はオリジナリティに溢れ、完全にパーソナライズされた仕上がりを実現し、時代を超えて受け継がれた職人の伝統と、最先端テクノロジーの組み合わせで仕上げられている。

グランドアルバイシンのベース車両は、Mazda MX-5（マツダロードスター スペイン仕様）で、最先端テクノロジーを基盤に実現されたプラットフォームと、レトロな外装が融合している。モデルは、クラシックな「Heritage（ヘリテージ）」とスポーティーな「Bespoke（ビスポーク）」の2種類。ルーフは「カブリオレ」と「タルガ」仕様、エンジンは1.5 L（132 PS）と2.0 L（184PS）から選ぶことができる。ボディカラーやシート素材・縫製やパイピングなど、自分の好みに合わせてカスタマイズすることで、世界に一台、自分だけの特別なクルマを作ることができる。

正規輸入元・ロシェル株式会社の坂口勝己代表は「昨年2月にドイツの知人から、面白い車があると情報をもらった。営業出身ということもあり、昔からインポーターや販売に携わりたいという思いがあった。昨年5月にスペインのフータン本社を訪問し、30年の歴史がある10名程度の少数精鋭部隊で、品質の高い車であることを自分の目で確認し契約に踏み切った」とその経緯を明かす。

なお、販売はディーラー網を作らず同社の直売とし、メンテナンス及びアフターサービスはJISPAの会員工場で行う予定である。



THUR TAN
Grand Albaycin



Heritage

ヘリテージ

レトロ感漂うエレガントでセンセーショナルな2シータースポーツカー。フロントグリル、フロント、リアのバンパーやドアハンドル、ヘッドレスト、ミラーキャップなど、各所にちりばめられたクロームパーツや、クラシックタイプのスポークホイールがヘリテージの証。



Bespoke

ビスポーク

ビスポークは大胆かつスポーティーな仕様を身に纏った特別な2シータースポーツカー。フロントグリルはメッシュ素材、インテリアにアルミ、カーボン素材を多用して、スポーティーなデザインのホイールが軽快感を高めます。



カブリオレ	1.5 L	132PS	6MT
	2.0 L	184PS	6MT
タルガ	2.0 L	184PS	6MT / (6EC-AT)

〈取材協力:JISPA賛助会員〉

ロシェル株式会社

〒594-0083 大阪府和泉市池上町255-3

電話番号:0725-45-9000

HURTAN JAPANショールーム

〒550-0003 大阪府大阪市西区京町堀1-18-15 1F

電話番号:06-6447-5550

営業時間:10:00 - 18:00 定休日:水曜日



JISPA会員工場 | 訪 | 問 | 記 |

サンエー自動車工業有限公司

<SHOP DATA>

サンエー自動車工業有限公司
埼玉県入間市宮寺 2230-1



“20年50万キロ”長く乗る選択肢を 輸入車が輸入車を呼ぶ好循環

今回紹介するサンエー自動車工業有限公司は、埼玉県の南西部に位置し都心から40km圏にある入間市で钣金、塗装、車検、整備、自動車保険、自動車販売などのサービスを提供するカーメンテナンスのトータルショップである。大手車検チェーンの看板を掲げる整備工場その他、钣金塗装工場と新車中古車展示場も併設する広い敷地には、トラックから軽自動車、そして輸入車まで幅広い層のクルマが揃っている。

同社の創業は1985年2月、先代創業社長が現在の場所から少し南に下った瑞穂町にてディーラーの下請け工場として钣金塗装事業をスタートさせ、18年前に現在の場所に移ってきた。それから4年後、同社にとって大きな転機となったのが、創業社長から2代目への代替わりである。現在社長を務める隄拓馬氏がまだ30歳の若さの時だったという。「いくら経営を学んでも、No. 2の役職で経験を積んでも、社長でなければ見えないことが沢山ある」という先代の考えのもと、従業員の中で一番年下である隄社長が会社の舵取りを任されることになった。

同社が輸入車に携わることとなったのは、钣金塗装のネットワーク「ヤナセ ザ・ボディショップ ネットワーク」に加盟したことがきっかけだった。元々は国産車を中心に扱っていた同社にとって、ヤナセからの「塗装のハダをあわせて欲しい」という品質に対する要求はなかなか厳しいもので、エアの圧を上げて叩きつけるように塗る輸入車特有の塗装方法に慣れるまでは苦勞をしたという。しかし努力の甲斐あって現在では、ヤナセからの仕事が同社の売上の多くを占めるほどに信頼関係を構築できているという。さらに特徴的な修理がアルミホイールのリペアである。ヤナセが下取

りした車両を中古車として再商品化するために、旋盤を導入し新品同様の輝きを取り戻す施工を行なっているという。

次に、隄社長が仕掛けたのが「钣金塗装という業種店からカーメンテナンスという業態店へ」と舵を切る「車検のコバック」へのFC加盟である。この時に、ヤナセからの修理依頼で入庫している輸入車が敷地内に多く停まっているのを見た近隣の輸入車オーナーから、輸入車の整備をお願いしたいと依頼があったことが輸入車整備を行うようになったキッカケであり、後にJISPA加入へと繋がることになる。まさに“仕事が仕事を呼ぶ”典型的な事例である。輸入車整備に始める際に苦勞するのが、整備情報の入手や部品の流通である。その問題を解決するために加入したのがJISPAだという。



社長を務める隄拓馬氏

現在、同社のお客様の約3割近くが輸入車ユーザーだそう。輸入車ユーザーが多い地域ではなく、立地にものごく恵まれているわけでもなく、特別な広告を出しているわけでもないのに、なぜ輸入車ユーザーは同社に訪れるのだろうか。今回同社を訪問し、隄社長から「コバックの“20年50万キロ”精神ではないが、大切な愛車に長く快適に乗り続けたいというお客様の要望に応えられるようにしたい」とお話を伺い、その理由が分かるような気がした。とにかく真面目で勉強を欠かさず、真摯に仕事と向き合っている様子が「ここに任せておけば安心だ」という気持ちにさせてくれるのだろう。



钣金工場には多数のメルセデスが所狭しと入庫している



アルミホイールの旋盤機を導入



主にオーテルとツールプラネットの診断機を使用



HUNTER社の4輪アライメントテスターを保有



気になる自動車業界の先を詠む

自動車業界の



な話題

Automotive industry News

テーマ① ▶ 日本唯一の自動車アフターマーケット国際展示会

3月7日(火)～9日(木)の3日間、東京ビッグサイト西3・4ホールにて「第20回国際オートアフターマーケットEXPO 2023」が開催される。

本展は、自動車のアフターマーケットビジネスの活性化を図ることを目的に、自動車の売買・整備・メンテナンスをはじめ、自動車特定整備認証、OBD点検、車検証電子化によるワンストップサービスの普及など、今後、様々なルールへの対応が求められる自動車業界を取り巻く環境・インフラなど、様々な自動車アフターマーケットに関する最新情報や業界動向を展示・実演・セミナーなどによって情報提供をする場であり、自動車関連ビジネスに関わる幅広い関

係者に交流の場を提供するコンベンションである。

出展企業による製品・サービス展示の他、行政関連の動向をはじめ、EVへの対応や新事業体系、地域連携やディテリング、そして恒例のオートアフターマーケットサミットなど、多岐にわたるセミナーや、水性塗料の塗装実演、最新機器によるキャリブレーションの実演も実施される予定だ。

協力団体として名を連ねるJISPAもブースを構え新規会員工場の募集を



行うと共に、JISPA賛助会員協和自動車株式会社の島倉常務によるセミナー「輸入車整備の変遷と今後の展望」も予定されている。JISPAの目指す“輸入車整備の全国ネットワーク”構築に向けて、積極的な広報活動の場として活用したい。

テーマ② ▶ 車検証が電子化、ICタグを装着した「電子車検証」に変更



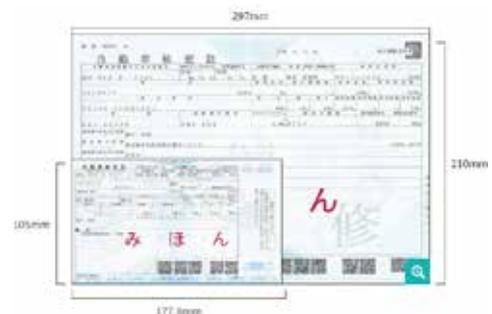
2023年1月4日より普通自動車の車検証が電子化され、ICタグを装着した「電子車検証」に変更となった。必要最小限の記載事項を除き自動車検査証情報はICタグに記録され、ICタグの情報は汎用のICカードリーダーが接続されたPCや読み取り機能付きスマートフォンで参照可能である。

車検証電子化の目的について国土交通省は「自動車ユーザーや自動車関係の事業者の皆様のさらなる利便性向上のため、自動車登録手続きのデ

ジタル化に取り組んでいます。現在、車検証の交付を受けるためには運輸支局等への出頭が必要ですが、車検証を電子化し、整備事業者等の事業所等において車検証の有効期間を更新する仕組みを新たに導入することで、車検時の運輸支局等への出頭を不要とする制度とシステムを導入します」と説明する。

なお、電子車検証及び車検証閲覧アプリが普及するまでのしばらくの間は、電子車検証発行時や更新時にICタグの内容も含めたすべての車検証情報が記載された「自動車検査証記録事項」が発行される。「自動車検査証記録事項」は、車検証のように車両運行時

に自動車に備え付ける義務はないが、電子車検証のICタグに記録され、券面で確認できない事項を容易に確認できる補助的なものである。ICタグに記録された情報はスマホ等で「車検証閲覧アプリ」を使って確認できるが、スマホの操作に不慣れな方などは、電子車検証の券面で確認できない事項を容易に確認できる書面となるため、電子車検証と共に自動車に搭載しておくことが推奨されている。



※画像出典：国土交通省電子車検証特設サイトより

意外と知らない？ クルマの豆知識

バッテリーの話

エンジン始動時をはじめ、ヘッドライトやブレーキランプ等のランプ類、カーオーディオやカーナビ、パワーウィンドウ、ワイパー等、多くの電装品に電力を供給しているバッテリー。このバッテリーが劣化や放電によってキチンと作動なくなると、エンジンが止まってしまう、始動しないといった不具合が起こる訳だが、何でもかんでも交換すれば済むということではないので注意が必要だ。

バッテリーには性能や大きさによって様々な形式があり、JIS(日本工業規格)、BCI(米国バッテリー規格)、DIN(ドイツ工業規格)、EN(ヨーロッパ統一規格)など様々な規格に分かれている。それぞれ

の規格ごとでバッテリー表示形式も異なり、JIS規格では、高さ・幅・奥行・端子位置まで読み取れるが、DIN規格表記では、カーバッテリーの種類(12V100Ah未満等)、20時間率容量、バッテリーの形状を示す登録シリアル番号が記載されているのみである等、単純に比較することも難しい。また、同じ12Vの電圧でもサイズが異なることでケース内に収まらなかったり、きちんと固定できなかつたりすることもあるので、兎にも角にも自分の車に適合したバッテリーを選択することが重要だ。

さらに、最近の新しい車両においては、バッテリー交換後にスキャンツールで設定(リセット)が必要な車種も少なくない。例えばBMWのE60系、E90系には、IBS(Intelligent Battery Sensor)が搭載されており、車両コンピューターで搭載されているバッテリーの容量・使用年数・現



在のバッテリー残量に合わせた充電制御を行っている。そのため、新しいバッテリーが車両に取り付けられたことを車両に伝えなければならない。

バッテリー位なら自分で交換できると考える輸入車オーナーも少なくないだろうが、最近はバッテリー交換やオイル交換でもスキャンツールが必要な時代になってきた。作業をする前に、自分の愛車のバッテリー交換方法を調べてみて、診断機が必要なようならディーラーや診断機を持っている整備工場に作業を依頼することをお勧めする。

〈 JISPA 会員紹介 〉

JISPAは、輸入車の整備を行える“国産車も整備する街の整備工場ネットワーク”創設を目指しております。JISPAの理念に賛同した加盟店をご紹介します。

有限会社大山自動車整備工場

(2016年10月 加盟)

所在地: 福岡県糟屋郡粕屋町戸原 843-1

URL: <https://www.ohyama-seibi.jp/>



福岡県北西部に位置し、北九州自動車道の福岡インターチェンジや福岡市高速道路のランプを有し、国道201号や福岡外環状線が通る交通の要衝となっている人口約4.9万人の町「糟屋郡粕屋町」は、博多駅までJRで10分、福岡空港まで車で15分と、都市機能の利便性を享受できる町であり、流通業務関連の開発が進んでいます。

この地で昭和49年に大山孝之現会長が創業した有限会社大山自動車整備工場は、整備士5名、営業1名、事務2名の8名体制で事業を営む指定整備工場です。現在会社の指揮を執る大山ちは社長は、丸の内OLとして勤務していましたが結婚を機に帰郷。父親の会社である大山自動車整備工場を手伝っていました。その後、父親が体調不良となり、今から約6年前の平成29年4月に社長を引き継がれました。

同社に入庫する車両は、流通センター近郊ということもあり入庫の70%が大型車ですが、顧客のマイカーとしてベンツ・BMWなどの輸入車もコンスタントに入庫しているといいます。大型車



も含め、整備内容を充分説明のうえ、ご予算含めお客様に納得していただいたうえで整備を実施されており、仕事の車だけではなく、お客様のマイカーである輸入車も自社でメンテナンスしてあげたいとの思いからJISPAに加盟され輸入車整備に取り組んでおられます。

同社には、第22回 全日本自動車整備技能競技大会で優勝され、FSA高難度診断スペシャリストの資格を持つ、遠山工場長が在籍している他、輸入車整備の経験が長い専任メカニックも在籍しており、大型車から輸入車まで対応できる最新のスキャンツールを導入しているため、技術的にも設備的にも安心して任せられる体制で対応されています。

現在は大型車の整備が多忙で積極的に輸入車整備をアピールできない状況ですが、今後はWeb予約やLINE等を活用によるDXを推進し、業務改善を実施し輸入車の受入体制を強化していきたいと展望を話してくれました。



輸入車修理のベストパートナー

一般社団法人 日本輸入車整備推進協会

一般社団法人 日本輸入車整備協会 (JISPA) は、国産車を整備している「街の整備工場」で、併せて輸入車を整備する独立系整備工場 (Independent auto repair shop) の全国ネットワークです。

電子診断のデータに基づき、車両の環境性能・安全性能・乗り心地を自動車メーカーの工場出荷時(新車)の状態に戻す新時代の診断整備を目指します。現在全国100社のネットワーク構築に向けて会員を募集しております。詳しくは、右記ホームページに記載の入会案内をご覧ください。事務局までお問い合わせ下さい。

JISPAニュースに関する
ご意見・ご感想・ご要望などをお寄せください



JISPAニュース編集部では、今後ともコンテンツの充実に向けて参ります。皆様からの多様なご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまで、お寄せ下さい。

JISPA事務局 ▶ jispago@gmail.com

<http://jispa.net>